

川崎市議会議員

松川 正二郎

まつかわ しょうじろう

令和4年10月議会報告

子ども 老後 防災 防犯 交通

そのつばやきを政策に。

あんしんNo.1 の中原区へ

松川正二郎プロフィール

昭和43年生まれ、中学1年生の父 共働き世帯
城西大学経済学部卒 カリフォルニア大学リバーサイド校留学
元復興大臣 衆議院議員 田中和徳 元公設秘書
家族：妻、長女（中学1年生）

丸子多摩川観光協会 丸子の渡し花火実行委員長
NPO 法人防災・防犯ネットワーク中原支部長
中原区町内会連絡協議会常任理事
新丸子町内会会長 中原消防団丸子分団班長
丸子地区社会福祉協議会副会長 丸子地区商店街連合会顧問
中原中学校区地域教育会議顧問

30年ぶりの水準に至る急速な円安その他、様々なトピックが世情を騒がせ、私たちの生活にも少なからぬ影響を及ぼしています。そうした「国政面」での動きからも目が離せない状況ですが、私たちにとっても身近な行政である市や区の単位でも、目に見える変化や成果がございます。以下、この半年の川崎市議会の動向につき、幾つかトピックを紹介して参ります。

TOPIC 1 児童福祉法改正と子ども家庭庁設置への動き

6月8日に改正児童福祉法が成立するとともに、同15日には、子育て支援、子どもに貧困対策、児童虐待防止、少子化対策に至るまでを受けもつ子ども家庭庁の設置関連法案が参院本会議で可決され、成立しました。他方で、全国的に児童相談所における虐待相談件数は過去最多を記録し、本市においても令和2年度で5,557

件、令和3年度はさらに4.9%増の5,832件の虐待相談があったとのこと。本市でも川崎市子どもを虐待から守る条例が平成25年に施行され、年次報告が行われておりますが、こうした傾向はそこでも付言されています。市としては、児童相談所虐待対応ダイヤル「189（いちはやく）」の普及や、警察との連携が進んだことが背

景にあると考えているようですが、それだけでしょいか。改正児童福祉法が求める、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもの包括的な支援を行う機能の構築に向けた検討を行っていくとのことではございますが、今後の動きをこまやかに見て参りたく思っています。

TOPIC 2 デジタル・ディバイド問題

去る6月14日、「令和4年版高齢者白書」が閣議決定されました。そこでは、インターネットやSNSを利用している高齢者は、そうでない人に比べ3倍以上が「生きがいを十分に感じる」と回答しています。他方で、日本の高齢者のスマートフォン利用率は諸外国の3分の2程度の44.5%、PCに至っては半分程度の31.3%、SNS利

用率は諸外国が半数近くであるのに対して12.6%、インターネットでの情報収集に関しても同様に31.7%に留まっているとの報告がされています。その理由としては、「使い方が分からない」が50.3%、「必要性を感じない」が49.2%となっています。高齢者の身近な通いの場であるいきいきセンターへのWi-Fi整備及びWi-Fiを活

用した利用者向けスマートフォン講座が実施されていたり、市内48か所のいこいの家でもデジタルに慣れ親しむための環境整備が推進されるとのことではあります。こうした数値からは、デジタル・ディバイド解消に向けた更なる支援が必要であり、必要性や使用法の周知も不十分であるということがいえるでしょう。

TOPIC 3 川崎市の動物愛護施策～さくらねこをご存知ですか～

国内の犬猫飼育頭数の統計によれば、1年以内の新規飼育者による飼育頭数は、犬・猫ともに新型コロナ禍前に比べ増加しています。リモート・ワークの普及や外

出自粛の影響が大きいものと推測されます。他方で、安易なペットの受け入れの拡大を受け、様々な問題が生じています。本市のデータでは、令和2年まで減少傾向

であった成熟個体の猫の飼い主からの引き取り数が、令和3年においては4年ぶりに増加に転じています。平成26年以降、健康な犬猫の殺処分については本市では0

が堅持されている一方で、**多頭飼育崩壊等の新たな問題**が顕在化しているようです。市の動物愛護センターでも、ボランティアの皆さまによる馴化やSNS上での発信等を通じて譲渡希望者を募る等、積極的な対応を推進しているようですが、早期発見、早期対応のためには地域の皆さまも含めた見守りや連携も不可欠のところです。

また、猫、殊に野良猫についてはその繁殖力から、庭先や公園で子猫を産んでしまうようなケースが多々あることから、所有者不明の引き取り数における幼齢個体の数が多くなる傾向があります。この点、本市では地域猫活動サポーターを募り、野

良猫への不妊去勢手術の費用補助等を行っています。手術の際には猫の片耳の先をカットし目印とすることで、**再度捕獲されたり手術されたりすることを防止**する手立てが施されています。何も知りませんと少々可哀相に聞こえてしまいますが、手術時に麻酔下で処置が行われるため痛みもなく、健康や活動にも影響がないそうです。こうした猫はその耳の形状から「**さくらねこ**」とも呼ばれるそうで、地域猫活動の広告塔としての役割も期待されています。

次に、2019年6月に公布された改正動物愛護管理法が本年施行されました。主に、**犬猫販売業者の義務の強化や、動物**

虐待に対する厳罰化が実現されています。一方、昨今、長野県松本市内の事件等、犬猫販売業者による悲惨な事件なども多く取沙汰されています。逮捕された経営者は「担当者がちよくちよく異動して変わる行政なんてちよろいもんだ」といった趣旨の発言をしていたとの報道もございました。本市としては重点監視項目を設定の上で立入検査を行っていくとともに、国や警察とも連携しながらこうした事態にあたっていくとのことですが、業者の登録における厳格な審査や、よりきめ細やかな立入検査の運用といったことも必要になってくるものと思われます。この点、引き続き注視して参ります。

TOPIC 4 出資法人問題

東京都などでも年間1千億円以上の特命随意契約によって**巨額の前算が出資法人の天下り前算に流用**されていることが問題となっています。特命随意契約とは、国や自治体が公共事業の発注を行う際に、競争入札を行わずに特定の相手を指定して契約を締結する方式をいいます。本

市においても出資法人への特命随意契約が、少なからずなされています。特に、出資法人から民間を含めた他団体に業務の再委託がなされ、委託額との間に大きな価額差が見られるようなケースも散見されます。民間がより安く受注できるということはつまり、そもそもの**委託額の適正性**

に疑問を生じる次第ですので、その点につきまして9月の決算議会では質問を致しました。実際の市の答弁はどうにも紋切型に終始したものでしたが、この問題については今後に渡って追いかけて参りたく考えております。

TOPIC 5 がんやアルツハイマーに立ち向かうナノ医療イノベーション

国家戦略特区指定を受けたナノ医療イノベーションの推進事業をご存知でしょうか。**がんやアルツハイマーといった難治性疾患を、新技術を用いて克服**することを目指す事業ですが、莫大な研究開発費や既得権益等、様々な問題が指摘されているところです。実際に、特許が切れた抗がん剤を使用する手法である故熊本大学名誉教授の前田浩先生の研究成果は、製薬

会社に大きな利益をもたらすことがないこともあり、未だ普及体制が整っておりませんし、先日も話題となっておりました光免疫治療につきましては楽天グループの三木谷氏個人及び企業としての250億円以上の投資によって初めて日の目を見たといった事実もございます。こうした問題こそ、国に留まらず、自治体を始めとした公による支援に相応しいものです。

そうした点を踏まえ、現状における市の**1億1千万円という研究促進事業費は少々見劣り**するところがございますため、この点、決算議会にて採り上げました。今後の支援についても前向きな答弁を頂戴しておりますので、期待とともに見守っていきたく考えております。

アンケートにご協力ください

下記にご記入いただき、**FAX: 044-330-1619** (松川正二郎政務活動事務所) にお送りいただくか、QRコードを携帯電話でかざしていただきますと簡単なフォームで送信いただけます。

Q1

令和4年度、松川正二郎が現職の市議会議員として是非ともとりいれるべき施策等ございましたら、ご自由にお書きください。

Q2

新型コロナウイルス、令和元年東日本台風に対するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

こちらのQRコードから簡単にアンケート送信ができます



ご連絡先

松川正二郎政務活動事務所
〒211-0005
川崎市中原区新丸子町694-101
TEL: 044-328-9619
FAX: 044-330-1619
川崎市議会議員控室
〒210-8790
川崎市川崎区宮本町1
川崎市役所 第2庁舎7階
matsukawashojiro@gmail.com